

泉岳窯 風だより

〇三三号

泉ヶ岳 陶の店
無我久庵
379-0506

平成の見納め

泉岳の春

参上!

山桜・二十五日 開花か



ばされた枯れ葉に埋もれてお
りまされたが、この時期、山菜
は枯れ葉の下で一気か顔を
し、カタクリ・ノカンゾウ・
コゴミ・ワラビ・葉ワサビ・
と小鉢の一品を例年通
りお出しできる季節です。
連日、早朝から山菜目当ての登
山者が車で列を作りますが、事
には充分ご注意を!

・・・と小鉢の一品を例年通
りお出しできる季節です。
連日、早朝から山菜目当ての登
山者が車で列を作りますが、事
には充分ご注意を!

期間限定

店内陶器
半額サービス



無我久庵前の福寿草は三月の末から
花をほころばせ、チョット奥に入れば
フキノトウ・ノカンゾウと山菜も芽を
伸ばし始めました
県道沿いの雑木も、固い蕾をゆつく
り膨らませ、山裾は早春のたたくま
りとなつて参りました。
春風に誘われて泉ヶ岳の麓に足を伸
ばしましたが、ミズバショウの小さな
穂先が湿地から顔をのぞかせ、あと数
日で五分咲きかも知れませんが、厳寒
の積雪の少ないこの冬でしたが、厳寒
の日々が続き、お客さまからはツラ
ラの大きさに驚きの声も聞かれまし
た。

店の周辺の小径も木枯らしで吹き飛

厳寒の時期こそ陶芸家は仕込み作
業でのフル回転の日々です。
粘土の調整・うわぐすりの開発。
創作陶器の試行錯誤、造形と釉薬
のバランスを見据え、試し焼きを
繰り返します。

窯の温度も気温と湿度で微妙に
調整が必要です。
一面雪に埋もれた窯庫での作業
は緊張の連続です。

先日、テストの作品を窯出し
ました。なかなかの出来映
えです。
新しく工夫を重ねた粘土とうわ
ぐすりを用いた作品の数々を、四
月の「早春のリニューアル展」で

案内板

会員陶芸得々コース開催
4月20日まで特別延長

4月 春季特別陶芸体験企画
お食事メニュー（和風中華そば）
春山菜小鉢盛・サービス期間
■ 早春を楽しむうつつわ展
■ 親子陶芸体験会
■ ランチ付き陶芸体験
★ 野草と茶会を楽しむ会
(要予約)

5月 お食事メニュー（ざるそば）
高原山菜小鉢盛 サービス期間
自家栽培野菜・販売開始
■ 薫風を装うつつわ展

6月 お食事メニュー（ざるそば）
夏野菜小鉢盛・サービス期間
栽培野菜格安販売
○ 葉物・大根・キュウリ

7.8月 夏季特別陶芸体験企画
お食事メニュー（ざるそば）
■ 涼を呼ぶうつつわ達展
夏季特別陶芸体験企画
◆ ランチ付き陶芸体験
夏野菜格安販売
○ 葉物・トマト・キュウリ
馬鈴薯・ズッキーニ

お披露目いたします。
お客さまもお食事処だけとお考えの
解いただきたく、四月末まで店内作品
の一部を除き、半額で提供します。

会場一新
村松 淳 作陶展
「ギャラリー専」
会期 九月十五日より

大学の卒業と同時に取り組んだ作陶生
活も、十五年を超ようとしています。
その間、NHK、仙台リビングをはじめ
に、数々の組織の後押しを受け、作陶
に取組んでいただいた生徒さんは、
百数十人となりました。
昨年までの会場「晩翠画廊」から、
今年「ギャラリー専」にて個展を開
催いたします。
年々創作の範囲を広げ、和モダンを
基調とした作品から、斬新でかつ伝統
陶器のお趣を生かす作品づくりを追求
してまいりました。
今回の個展では、今までの作風から
脱皮し、新しい感覚を醸し出せたらと
挑んでいます。

春のサービスコース
四月二十日まで延長
会員様への特別企画

旅行代理店との共催サービスで実現
しております陶芸体験得々コース。
雪の多かった冬に体験できなかった会
員の皆様の要望にお応えし、スポンサ
ーのご厚意で期間延長が決定しまし
た。

サービス期間・四月二十日まで 要予約

陶芸体験コース・千五百円
ランチ付き陶芸体験・二千円
親子陶芸体験コース・三千円
（ランチ付きの場合は四千元）
ラーメン付き陶芸体験・千八百円

四季草々

寒苦を経て梅まします芳し

長く、厳しい冬であればこそ、早春の梅はこ
このほか芳しく、そして華やかに咲き誇るも
のです。人もまた、苦しい修行に耐えてこそ
初めて人生の華を開かせる……との先人の教
えです。この冬、雪の山里で自称 都会のママ
ギは、深夜、県道を爆音を響かすスキー帰りの
一行に、連夜心を乱され続けました。
ある厳冬の一日、春待、心の高ぶりに押さ
れながら、古枝に懸けた巣箱を新しい枝に移
す作業に取り組みました。

以前、小鳥の巣箱での子育ては年に一度だ
けと信じていた。タギは、巣箱の観察から、野
鳥は年に幾度となく、同じ巣箱を再利用する
事を発見しましたが、この冬はまた、新しい発
見に出会いました。古枝から下ろした巣箱を
観察すると、巣箱は多シリと重く、巣穴まで
ギ、シリと苔や枯れ葉、小枝が詰められ、小鳥
は入れぬようにされているのです。

「立鳥、あとを濁さず。確かに、ヒナが孵
る時期には、親鳥はセッセと卵の殻やフンをく
ちばして摘まみ、巢の外に吐き出して清掃す
る姿が観られます。しかし、巣穴が埋め尽く
さるほどの汚れはどうしたのでしょうか。
おそろく、再利用する小鳥達は次から次
と、巣箱を利用し、本能が守ってきた。立時
の「マナー」を失たのだとタギは思うのです。
東京出張の折、神宮の森で聴いたヒヨドリ
の鳴き声は「ヒヨ、ヒヨ」と都会のせわしが感
じられる鳴き声です。

環境調査で訪れ、北海道 円山公苑で耳に
したその声は「ヒヨ、ヒヨ」と大自然を感
じさせる、おおらかなエスプリでした。
この冬、季節はずれの、しかも迷惑な早朝
に啼きだした泉ヶ岳のヒヨドリは、ギィヒィ、ヒ
ィギィ。白銀に響く不気味で迷惑なもの
の声です。

ヒヨドリは土地の言葉をまねると云われま
す。深夜のスキーヤーの交通マナーをまさかヒ
ヨドリがまねる……とは?



ゆとり炉無我久庵 泉ヶ岳山麓
陶芸教室ゆとり炉 長命ヶ丘
泉岳窯ゆとり炉 泉ヶ岳山荘